

2005年夏期国際環境協力ワークキャンプ報告 (PS・ピサノローク PS・チェンライ)

2005年8月10日より8月22日にかけてタイ国ピサノローク県およびチェンライ県において国際環境協力ワークキャンプ・プログラムサポートングを実施しました。

ピサノローク県および隣接するスコタイ県では化学肥料の過剰な使用により、水環境の汚染が深刻化しています。参加会員には有機肥料の普及と水環境の保全を目指した持続的農業の推進を目指したプログラムに取り組みで頂きました。チェンライ県の急傾斜地では肥料の流出や斜面の侵食が生じており、農業のみならず周辺環境への悪影響も懸念されています。参加会員にはアグロフォレストリーをつくる植林や環境保全型農業を推進するプログラムに取り組みで頂きました。各コースでは現地農家への体験ステイ等も実施し、タイ国における国際環境協力の意義についても理解を深めて頂きました。

各プログラムサポートングの概要と参加者の声を紹介します。

1. プログラムサポートング・ピサノローク

(1) 実施期間

2005年8月10日～2005年8月15日(6日間)

(2) 参加者

三堀友子会員、野口佳恵会員、大谷浩則会員、関戸祐子会員、山村美友会員(5名)

(3) スケジュール

8月10日

午後：Phitsanulok 空港にて集合(参加者全員)
大型スーパーBig Cにて買い出し
ERECON ハウスにて宿泊

8月11日

午前：堆肥槽の設置を支援したSukhothai 県 Khri Mat district、Thung Yang Mueang sub-district の農村 (Songkrasa village、Thung Yang Mueang village、Nern Sa Dao village) における堆肥づくりの実演と協働作業
Thun Yan Mueang sub-district office 訪問

午後：堆肥づくり実演の継続 (Khlom Nam Yen village)
翌日開催のワークショップ準備
農家ステイ



8月12日

午前：ワークショップ「有機農業に取り組みよう」開催
(タイ人専門家による講演、農家が営農上で抱える問題に関する相談会、聞き取り調査等)

午後：陶器工場・農場見学
農家ステイ



8月13日

午前：Ban Khlong Nam Yen elementary school 小学生との交流会開催

午後：Phitsanulok 県内学校訪問
ペレット堆肥作成農家訪問
野口佳恵会員途中解散
農家ステイ



8月14日

午前：スコタイ歴史博物館 (Sukhothai Historical Park) 訪問
(ワット・サ・シー (Wat Sra Si)、ワット・マハタート (Wat Mahathat)、ワット・シー・サワイ (Wat Sri Sawai) 等見学)

午後：ナイトバザール訪問
ERECON ハウスにて宿泊

8月15日

午前：東南アジア事務局にて修了式

午後：Naresuan University 内 Textile Museum 訪問、ワットヤイ (Wat Yai) 見学、マッサージ体験、Big Cにて買物
Phitsanulok 空港にて全員解散

(4) ワークキャンプ参加者の声

1) タイの農業にふれて(三堀友子 会員)

今回のプログラムに参加したのは、実際にタイで堆肥を作ったどのように利用しているのを見てみたかったからです。スコタイのプログラムは始まったばかりのため、農家の皆さんが堆肥づくりに興味をもつように活動を進めていくことは大変なことだと感じました。今回の活動を通して農業のすばらしさを体験し、今後の活動に関わっていきたくと思いました。お世話になった皆さん、有難うございました。

2) 五感を使ったワークキャンプ(野口佳恵 会員)

水田、果物の木、牛、鳥たちに囲まれた道を走っていると、本当に幸せだな、と感じました。日本で時間に追われ働いていると目の前の事に精一杯で何かを感じる事がとても少ないです。五感を使ったワークキャンプでした。日本で快適な生活をするために働くか、自然の中でゆっくり生活しながらも自然と戦いながら必要最低限のことをするか。どちらも自然と共存し、環境を考えていかなければならないことは、一番の核だと思います。



3) 泰 (大谷浩則 会員)

自身初めての国際協力ボランティア。様々な経験をしたが、小学校での子供達との交流が一番印象に残った。僕が顔を出し、一緒に遊んだ時の子供達の笑顔は本当に忘れられない。よく聞くフレーズかもしれないが、心底に感じさせてくれたこのキャンプに感謝する。

4) タイの子供達と (関戸祐子 会員)

大自然の中で、ゆったりとした時間を過ごせたことは、日本での自分を見つめ直す良いきっかけとなりました。ステイ先の農家には、朝から夜まで常に子供達がいと一緒に遊びました。言葉が通じなくても、楽しみを共有できたことが嬉しかったです。

タイで過ごした時間が、子供達と一緒にいることの楽しさを思い出させてくれました。有意義なキャンプを準備・運営して頂いた ERECON の皆さん、本当に有難うございました。

5) 有機農業の現状を目の当たりにして (山村美友 会員)

ワークキャンプに参加して、実際に有機農業がいかに困難であるかを知り、現地の人々一人一人の堆肥化への理解の重要性、また、農地の規模に対する堆肥の生産量が少ない為、この差を縮小するために多くの時間が必要だと感じました。貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。



2. プログラムサポーター・チェンライ

(1) 実施期間

2004年12月23日～28日(6日間)

(2) 参加者

小林千絵美会員、熊谷光会員、國友淳子会員、高橋悠子

会員、田村純乃会員、鳥居香代会員、吉岡祐哉会員(7名)

(3) スケジュール

8月17日

午後：Chiang Rai 空港にて集合(参加者6名)、市場にて買い出し後、Chiang Rai LD Station にて宿泊

8月18日

午前：Chiang Rai 県 Mae Fah Luang district, Mae Fah Luang sub-district, Pang Phra Ratchatan village 訪問
植林に関するセミナー開催、果樹の配付・植林実施
ワークショップ「環境保全型農業に取り組みよう」開催(現地農家による堆肥づくりの取り組み報告、意見交換会、聞き取り調査)、Vetiver 植付け、交流会等



午後：Pang Phra Ratchatan village 内の高所集落訪問
堆肥加工機械の保管倉庫・贈呈記念撮影
吉岡祐哉会員のワークキャンプ途中合流
農家ステイ

8月19日

午前：Pang Phra Ratchatan village にて農家訪問、植林樹木調査、堆肥化作業の手伝い等

午後：植林樹木調査等の継続、農家ステイ

8月20日

午前：Pang Phra Ratchatan village にて傾斜畑地見学

午後：Big C にて買物、Mae Fah Luang University 訪問

國友淳子会員途中解散

ナイトバザール訪問、Chiang Rai LD Station にて宿泊



8月21日

午前：Mae Fah Luang 財団施設訪問

午後：Mae Sai 見学(Myanmar 一時入国)、Doi Wao 見学、Golden Triangle 見学等

Chiang Rai LD Station にて宿泊

8月22日

午前：Chiang Rai LD Station にて修了式、Chiang Rai 空港解散
(4) ワークキャンプ参加者の声

1) 頭も体もフル稼働のキャンプ (小林千絵美 会員)

キャンプでは、メンバーに恵まれていたこともあり NGO、プロジェクト遂行、山岳地の農業、植林について多くを学ぶことができました。また、仲間や現地の人ととても大切な時間をもつことができました。ERECON のスタッフをはじめ、一緒に活動したボランティアの方々、ありがとうございました。

2) 国際協力活動の難しさ (熊谷光 会員)

チェンライでの ERECON の活動は、思うように浸透していないのが現実であった。その理由は、国・自治体の政策や土地所有、農家それぞれの収入、家族構成などといった実に様々な要因が複雑に絡み合っているためであった。ただ単に物資援助や技術指導を行う事が国際協力だと思っていた自分にとって、今回ワークキャンプに参加したことで国際協力をどのように進めていくのか、国際協力とは何かを考えさせられた。最後に、お世話になった ERECON スタッフの皆様へ感謝致します。



3) 充実したワークキャンプ (國友淳子 会員)

タイの国境付近の農村ということで、参加する前は、どのような所か想像がつかなかったが、来てみると緑も多く残り、子供たちの笑顔も明るいきれいな農村だった。しかし、その地理的な要因もあり 様々な民族の人が集まっている農村で、村内での人々の繋がりやの深さはどうなのだろうか...と思った。2 日間の滞在だったが、農家の声を聞き、他のキャンプ参加者や ERECON の方々といろいろな農村についての意見が聞けて、とても良かった。キャンプ参加者の皆さん、ERECON の方々、有難うございました。



4) 伝えることの難しさ (高橋悠子 会員)

私自身、はずかしながら農業に関する知識は全くなくこのワークキャンプに参加させて頂きました。そんな私が印象に残ったことは数多くありますが、一番を挙げるとすれば「伝える事の難しさ」です。私たちが善しと思っている事でもチェンライの方々にとっては必ずしも善しではないのです。そんな彼らに私たちが目的としている事の理解を得て、共通点を見つける、それは思った以上に難しい事なのだなど強く感じました。最後に Best を持って、我々の対応にあたって下さった ERECON の皆さんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

5) Interview and meeting (田村純乃 会員)

今回のワークキャンプでは、農家への聞き取り調査を通して、今現在農家が抱えている問題やその要因を直接知ることができ、また聞き取り調査後のメンバーミーティングでの白熱した意見の出し合いがあり、大変充実した日々を過ごさせて頂きました。他のキャンプ参加者の皆さん、ERECON スタッフの皆さんに感謝申し上げます。

6) 有意義なワークキャンプ (鳥居香代 会員)

短い期間ではありましたが、タイ北部山岳民族の暮らしと取りまぐ環境・課題について学ぶよい機会となりました。ありがとうございました。特に、準備段階から現地でのプログラム終了まで大変丁寧に対応頂いたスタッフの皆さんにお礼申し上げます。

7) 期待と不安の初参加 (吉岡祐哉 会員)

今回、初めてのワークキャンプ参加となりました。ボランティアの理論と実践の差異や、現地農民がボランティアに対して抱いていることなど実際に「体感」することで知ることができました。有意義なキャンプを経験でき、大変有り難く思います。